

11月5日 全校朝会

初めに元気よく朝の挨拶をしましょう。おはようございます。
今日は少し寂しいお話をします。それは、上ノ原小の松の木とのお別れという話です。

上ノ原小には大きな松の木が生えていることを知っていますね。上ノ原小のシンボルとして、校歌の歌詞の二番にも「松の木立に囲まれて～」と登場してきます。70周年キャラクターのマツモスも松ぼっくりをかぶっています。現在、上ノ原小の松の木は、校庭に1本、のぼり棒の後ろに1本、体育館の入り口と校舎の間に2本、そしてここからは見えませんが、校舎の裏側に2本と、全部で6本生えています。来週、そのうちの2本、体育館の入り口と校舎の間の松の木を切ることになりました。

なぜ、上ノ原小のシンボルとなっている松の木を切らなくてはならないのか。大きな理由は、2つです。松の木が大きくなりすぎてしまったことと松の木が年を取って弱ってきてしまったことです。見てください、あの松の木を、体育館の屋根をゆうに超えて、校舎の屋上よりも大きいですよ。そのため、松の木の落ち葉や松ぼっくりが校舎や体育館の屋根に降り積もってしまい、雨漏りの原因などになってしまっているのです。また、傷んだ枝が折れて落ちてくることもありました。とても危険ですね。さらに、体育館は台風や震災の際の避難所となっていますが、実際に災害が起きたときに、あの松の木が折れてしまうと体育館の入り口がふさがれてしまい、避難所が使いえなくなってしまう危険性もあるということなのです。

このような理由であの2本の松の木とはお別れとなります。あの2本の松は、上ノ原小ができた75年前からあり、今日まで上ノ原小の子供たちをずっと見守ってくれていました。年齢は、200歳いや300歳近いかもしれません。そんな松の木とのお別れですから寂しいですよ。松の木とのお別れは今週の土曜日です。現在、計画委員会の人たちが、松の木とのお別れイベントをいろいろと考えてくれています。最後の一週間、皆さんも今まで見守ってくれた松の木に感謝の気持ちを伝え、お別れができるよとよいですね。

今日は、少し寂しいお話、「松の木とのお別れ」についてお話をしました。終わります。

朝会では伝え忘れてしまったのですが、このお別れする松の木の2世を育てます。上ノ原小のプランターと八雲造園さんで大切に育てていきます。苗木になったらまた上ノ原小に戻ってきます。楽しみです。



松の木とのお別れ会の様子：感謝の言葉を伝え、みんなで校歌をうたいました。